

Center for Advanced School Education and Evidence-Based Research  
Graduate School of Education  
The University of Tokyo  
Working Paper Series in  
the 21<sup>st</sup> Century International Educational Models Project

**Character Education in Indonesia and Growing  
Interest in Tokkatsu**  
**- A Case of Tokkatsu Activity in Bandung City -**

Kanako Kusanagi  
The University of Tokyo

March, 2019

No. 7

東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化・効果検証センター

Center for Advanced School Education and Evidence-Based Research  
Graduate School of Education  
The University of Tokyo

# インドネシアの人格教育と日本の特別活動への関心

## ーバンドン市における小学校の実践を事例にー

草薙佳奈子（東京大学）

# Character Education in Indonesia and Growing Interest in Tokkatsu

## - A Case of Tokkatsu Activity in Bandung City -

Kanako N. Kusanagi

### Authors' Note

Kanako N. Kusanagi is a Project Researcher for the Center for Advanced School Education and Evidence-Based Research, Graduate School of Education, The University of Tokyo

This working paper is supported by the Grants-in-Aid for Scientific Research (KAKENHI), Kiban A, No. 15H01987 (A Cross-National Research of Japanese Educational Efforts to Meet the Needs of the 21st Century and the Construction of International Models: Exploring Pluralistic Models).

### Abstract

There is a growing interest for a model for social and emotional learning and the application of such in a different sociocultural setting. This interest is partly motivated by an international attempt to assess both cognitive and noncognitive aspects of education. One such example is global competence used in the Programme for International Student Assessment (PISA) by the Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD). This paper examines the application of such model, namely “tokkatsu” originated in Japan, into an Indonesian elementary school context.

In Japan, various non-academic activities called tokkatsu are integrated into the curriculum. Students acquire social skills through experiencing collaborative and autonomous learning activities in school life. One of the well-known application is school cleaning and school lunch. Because it is a secular model and various activities could accommodate the different need of school, there have been attempts to incorporate *tokkatsu* activities into the existing school activities.

In Indonesia, the interest in character education is motivated by rapid economic development and interest for national security. There has been the drastic change in society and lifestyle of people and moral degradation of young people has been an issue. This working paper examines the trend for character education in Indonesia, and how it is promoted by the local curriculum in Bandung City and West Java Province. In Indonesia, character education is closely linked to both religion and citizenship education. Then it further examines the case of school lunch implementation in one elementary school which integrated *tokkatsu* aspect. By examining a case of *tokkatsu* activity in the Indonesian school, I will both examine the potential and challenge of *tokkatsu* model in the foreign setting.

*Keywords* : Holistic Education, Social and Emotional Learning, Tokkatsu, Japanese Education Model, Indonesian Education

## インドネシアの人格教育と日本の特別活動への関心

### ーバンドン市の実践を事例にー

#### 1 インドネシアの人格教育

多民族国家であるインドネシアは、国家理念として多様性の中の統一が掲げられている。アチェやパプアなどで分離独立運動、各地で宗教紛争も発生していることもあり、国の安定が経済発展に重要であり、国民の人格形成が重要であると認識されている。また、近年ではグローバル化の中、経済協力開発機構（OECD）が実施している児童の学力到達度調査（PISA）でインドネシア人児童の低学力が明らかになり、国際競争力の弱さが指摘されたことも、新しいコンピテンシーへの関心と、非認知的能力育成への関心を後押ししている。経済発展が進むにつれ、物質主義の傾向が強まり、年長者への尊敬の欠如、いじめによる自殺、未成年の妊娠、道徳心・宗教心の低下など、青少年の非行が社会問題として取り上げられ、学校教育での人格形成の必要性が指摘されている（Furkan, 2014; Muhamad & Saparahayuningsih, 2016）。

国家政策でも、倫理や道徳教育への関心の高まりが感じられる。2014年に発足した Widodo 政権は、インドネシアの経済発展には、スハルト独裁政権下の考え方や態度を改める必要があるとし、精神革命（Revolusi Mental）を政策として掲げ、啓蒙活動を通じた国民意識と行動の改革が目指されている（Jong, 2014）。過去の悪しき遺産として、汚職、文化的不寛容、私欲を満たす行為、自己中心的な態度、暴力的な問題解決方法、違法行為、楽観主義などが挙げられる。特に学校も含む政府機関において汚職を払拭し、市民の信頼を取り戻すことが目指されている。

この精神改革運動には、コミュニティ、企業、様々なステークホルダーの参加が必須とされ、国民精神革命運動のウェイブサイトが立ち上げられるなど

（<http://revolusimental.go.id/revolusi/mengapa-perlu>）、今日に至るまで、各種キャンペーンが繰り広げられている。例えば精神革命を促進するため、政府は国民コンテストを主催し、写真、ビデオ、歌、コミックの4つのカテゴリーで作品を募集した（The Jakarta Post, 2017）。受賞者には賞金やiPadなどの景品が贈られた。受賞作品の一つは、観光地として有名なバリをどのようにきれいに保つかについて取り上げたビデオ「It Starts with the Little Things」であった。

しかし、こうした啓蒙活動が十分な成果を上げているとはいえない。国民精神革命活動が開始された4年後の2017年に実施された調査では、汚職インデックスが34%から37%と改善したものの、目指されていた政府機関の汚職の改善には至っていない（Editorial Board, Jakarta Post, 2018）。

ここでは、東京大学大学院教育学研究科の日本型21世紀対応教育の国際モデル化に関する国際比較研究チームが2018年10月に訪問したバンドン市にあるY小学校の事例を取り上げ、インドネシアにおける全人的教育の潮流と事例を検討する。

#### 2 人格教育カリキュラムの位置づけとバンドン市の全人的教育への取り組み

インドネシアにおいては、人格教育

(Character Education) と関連した非認知的スキルが、教科横断的に大切であるとされ、2013年カリキュラムから強調されるようになった (Indriani, 2017)。特に宗教と礼節 (Pendidikan Agama dan Budi Pekerti) と市民性教育 (Pendidikan Pancasila dan Kewarganegaraan) の授業で取り上げられることになっている (森山 2015)。しかし、具体的な活動内容が示されているわけではなく、内容については学校に一任されてきたため、実践にばらつきがある。

インドネシアでは道徳や倫理観が、宗教教育と結びついている。このため、カソリックやイスラム教系などの私立学校が、公立学校との差別化を図るため、全人的教育を学校の特色として強調する傾向がある。しかし、2017年に前述の国民精神革命と関連した政策として、人格教育の強化の法令 (Penguatan Pendidikan Karakter: PPK) が出され、公立学校でもより組織的に人格・社会情緒スキルも含めた教育への取り組みがなされようとしている

(Cerdasberkarakter.kemdikbud.go.id, 2019)。

民族統一の目標を掲げて建国されたインドネシアでは、パンチャシラと呼ばれる建国5原則 (唯一神信仰, 人道主義, 民族主義, 民主主義, 社会正義) が国民形成思想の核にあった。しかし地方分権化が進むにつれ、地方政権の裁量で独自のカリキュラムが生まれるようになった。このため、近年の特徴として、地域性や民族集団の価値観に基づいた人格形成教育が、州レベルで実践されている (森山 2015)。インドネシアでは地域により宗教人口の構成に偏りがあるため、結果的にパンチャシラ思想は薄れ、宗教色が強まる傾向にある。特にジャワ島は大多数がイスラム教徒であるため、イスラム色が強く人々の価値観や教育観にも影響している

(Hays, 2008)。

### 3 バンドン市における全人的教育の取り組み

ここで事例として取り上げる Y 小学校のある西ジャワ州のバンドン市は、インドネシア工科大学 (ITB) をはじめ多くの大学が所在しており教育の街として知られる。2016年当時市長であった Ridwan Kamil 氏が人材育成強化のために提唱した、「マサギ」と呼ばれる独自の地域カリキュラムを取り入れている (Apandi, 2016)。マサギとは、地域語のスダ語で正方形という意味があり、広い視野を持って物事を判断し行動できる全人的に優れた人という意味である。バンドン市の教育局によると、人格教育はスダ人の文化や道徳観を育てるため、幼児期から必要なものであるという (インタビュー, 2018年10月19日)。



図1: 「マサギ」の4つの柱 (Sinambung Indonesia の Aditya Dharma 氏より資料提供)

バンドン市の中学校で使われていた研修資料には、4つの柱として信仰、道徳、科学、健康が示されている (図1)。神によって託された人間的価値を実現するために、自己、自然、そしてすべての生物と調和した、西ジャワ人の育成が目指されているという。

具体的には「マサギ」カリキュラムは、宗教、国防、スダの伝統文化、そして環境への愛をカバーし、学習活動、課外活動、環境活動、そして地域活動に統合することが想定されている。

2018年に西ジャワ州知事に就任した Kamil 氏は、バンドン市の「マサギ」教育をさらに西ジャワ州全土に拡大し、新たに「西ジャワ州マサギ」教育を推進している (Radarcirebon.com., 2018)。次世代のスダは、IQ 的な賢さだけでなく、誠実さや道徳観を兼ね備えた人材が必要とされており、21 世紀型スキルと伝統的な知恵の融合が目指されている。このように、21 世紀スキルの育成が、宗教や民族アイデンティティと関連付けて取り組まれている。

#### 4 Y 小学校における給食活動の事例

今回訪問した Y 小学校はバンドン市に位置し、1970 年代にオランダの財団が設立したカソリック系の私立校である。Y 小学校は、入学金が 9 百万ルピア (およそ 7 万円)、月の学費が 90 万ルピア (およそ 7 千円) というので、ジャカルタの一月あたりの最低賃金がおおよそ 90 万ルピアであることを考えると、富裕層の子どもたちが通う学校と言える。

Y 小学校は、人格教育を学校の特色として打ち出しており、人格的側面の教育を期待して入学を希望する保護者も多い。学校目標にも「知的で善良な学習者」を育てる、①キリスト教的価値観と普遍的な人間的価値観に基づいた先見の明のある教育を展開する、②人間の尊厳のために戦い、成長する優れた人を育成する、とある。今回東京大学のチームは、この学校と協力関係にあるインドネシア教育大学の講師である Tatang Suratno 氏の招待を受け、全人的教育・特

別活動のワークショップ開催のため訪問した。もともと Suratno 氏は、JICA のプロジェクトで日本の授業研究を実践しており、2014 年にパリで開催された国際セミナーで恒吉僚子教授を通して日本の特別教育を知った。10 年以上前からインドネシアで働いていた筆者とのつながりもあり、特別活動のワークショップが開催される運びとなった。

Y 小学校はインドネシア教育大学の Suratno 氏の指導のもと、特別活動の要素を取り入れた給食活動を導入している。通常インドネシアの公立小学校は午後 1 時に授業が終わるため、昼食は学校活動の中に含まれていない。しかし、殆どの学校では休憩や放課後に児童や教員が利用できるカフェテリアが併設され、インスタント麺や菓子パンなどの軽食が提供されている。また学校の玄関先には、駄菓子やジュースを売る屋台が集まり、休憩時間には子どもたちがお小遣いでこれらを購入している。こうした光景は、インドネシアの学校でよく見られるが、安価な軽食や菓子類は体に悪影響を及ぼす添加物が含まれる、炭水化物ばかりで必要な栄養が得られないなどの問題がある。

Y 小学校では 2003 年から保護者が持ち回りで給食を提供し、教師と児童と一緒に食べる文化がある。午後まで授業のあることの多い私立学校でも、教師と児童と一緒に昼食を食べることは珍しい。日本との違いは、給食を調理する設備がないため、保護者が持ち回りでクラス全員分の給食を提供している点である。保護者への聞き取りによると、この学校に通う児童は、裕福な家庭の子が多いため、費用面の負担は問題ない。実際誰が調理を行うかは、保護者が行う、ケータリングを利用、家事手伝い人が調理するなど、家庭の事情により異なる。校長によ

ると、保護者の学校参加を促すこと、より健康的な食事を子どもに提供することを目的に始められた。buffet形式で提供することにより、子どもが好きなものを食べられる、パッケージされた市販品の購入を控えることでごみが減らせるといった利点もあるという。また保護者の作った昼食は教師や学校で働く清掃員や事務員も食べることがあるとのことで、イスラム教のもてなしや施しの文化とも関連していると思われる。

このようにもともとあった保護者の支援による給食に、2018年から日本の学校の当番制を取り入れた。これは、授業研究の講師として招かれていた Suratno 氏と話をする中で、特別活動に関心を持ったことがきっかけであった。既存の給食に、協働的な学びの要素を取り入れることを目的に、5年生を中心に児童が交代で給食の配膳を行っている。

お手伝いさんのいる家庭も多い中、世話をされることに慣れてしまっているため、自分たちで配膳することで身の回りのことに責任感を持つこと、教室を清潔に保つこと、他者への思いやりの心を持つこと、などの効果が期待されている。しかし、この活動の中でも一人の子が好きなおかずを多くとってしまうなどの難しさがあり、これから改善策を見つけていくと校長と Suratno 氏らは話していた。

## 5 考察とまとめ

以上、インドネシアにおける人格教育とそのカリキュラム、バンドン市における全人的教育への取り組みの背景、既存の給食に日本の特別活動の特徴である当番制を融合した Y 小学校の事例を取り上げた。日本では人格形成は、児童が協働的で自律的な活動を体験する特別活動という学び

合いの仕組みを通して行われる。しかし、インドネシアではこうした教科横断型、また学年横断型の体験をするのは、朝礼や課外活動（教師以外がコーチを務める）に限定されており、学級担任の責任ではない。このため、Y 小学校の実践のように教科と切り離し、特色のある学校として活動が導入されやすい傾向がある。

また、インドネシアでは小学校の卒業試験の結果により、入学できる中学校が能力別に決まるため、授業の目的は国家統一試験の準備と捉えられることが多く、大多数の学校では知識詰め込み型の教育が行われている。このため、学力の定義が狭く、また競争的な教室文化の中、子どもたちの間にも学校間にも、序列化が生まれやすい。このような環境の中、協働的な学びを作ることの難しさが指摘されている。例えば、授業研究がインドネシアの学校で導入された際にも、授業後の協議会で、学びのプロセスよりも、教師の指導法の評価や、児童の評価に関心が集まったことが指摘されている（草薨 2019, Kusanagi, 2014）。

インドネシアの教育政策の傾向として、優れた学校や人に賞金や賞品を与えることで、新しい施策を推奨することが多い。これも学校の質の序列化を後押しする結果となっている。前述の政府主催の「精神革命」コンテストの事例からもこれがわかる。このように、優れたものは競争から生まれるという思想がある。このため、全人的教育も特色ある学校づくりの一貫として、付加価値的に私立の学校で導入されやすい。Y 小学校のような比較的富裕層な子どもが通う学校で特別活動が導入されたことからこの付加価値的意味が見える。

これは人格教育でも同様で、マサギ教育に見られるように、地域性や宗教性などのアイデンティティと関連付けて、他の地域や民族より優れた

次世代のリーダーを育成しようとする意図がみえる。これはインドネシアでは教育が政治と密接に関わっており、教育政策がトップダウンで進められるという背景もある。一方、日本の特別活動は、必ずしもリーダーを育成することが目的ではなく、集団コミュニティにおいて協働する、それぞれの力を発揮するなど、全ての子に必要な資質・能力を育成するものとして理解されている。今後、新しいインドネシアの市民性と関連して、多様な全人教育・人格教育の試みが生まれることが予想される。これまでインドネシアの学校教育は学力をつける場所として、ある意味地域と分断され、狭義の教育の場として機能してきた。しかしグローバル化の中、社会と学校教育の連携、連続性が重要な視点となってきたことから、その役割も変化しつつある。例えば大学レベルでは、サービスラーニングなどが取り入れられており、コミュニティとの連携が推進されている。

日本から持ち込まれた授業研究が10年以上かけてインドネシア全土で実践されているように、特別活動も子どもの協働的な学びの仕組みとしてインドネシアで広まる可能性は十分にある。現在、東京大学のチームにも大学機関、学校から日本型教育モデルや、特別活動について講演や、実践へのアドバイスの依頼が増加している。今後インドネシアの学校に根付くかどうかは、どれだけ既存の学校の活動に様々な学び合い・協働的な活動の仕掛けを埋め込むことができるか、また活動自体が目的にならないように、子どもたちの自律的で協働的な学びに取り組む意義が学校内で共有されるかにかかっているのではないかと考えられる。

## 引用文献

Agung, L. (2018). Character education integration in

social studies learning. *Historia: Jurnal Pendidikan dan Peneliti Sejarah*, 12(2), 392-403.

Apandi, I. (2016, August 10). Mengenal Kurikulum Pendidikan “Masagi” Kota Bandung. [online] KOMPASIANA. Available at: [https://www.kompasiana.com/idrisapandi/57a99ef-fbb22bd8b11136f0e/mengenal-kurikulum-pendidikan-masagi-kota-bandung?page=all] (Accessed 12 Mar. 2019).

Cerdasberkarakter.kemdikbud.go.id. (2019). Kebijakan Penguatan Pendidikan Karakter – Penguatan Pendidikan Karakter. [online] Available at: [https://cerdasberkarakter.kemdikbud.go.id/?page\_id=132] (Accessed 13 Mar. 2019).

Editorial Board. (2018, October 24). Better to reform the system. [online] The Jakarta Post. Available at: [https://www.thejakartapost.com/academia/2018/10/24/better-to-reform-the-system.html] (Accessed 13 Mar. 2019).

Furkan, N. (2014). The Implentation of Character Education through the School Culture in Sma Negeri 1 Dompu and Sma Negeri Kilo Dompu Regency. *Journal of Literature, Languages and Linguistics*, Vol.3, 14-44.

Hays, J. (2008). EDUCATION IN INDONESIA | Facts and Details. [online] Factsanddetails.com. Available at: [http://factsanddetails.com/indonesia/Education\_Health\_Energy\_Transportation/sub6\_6a/entry-4072.html] (Accessed 13 Mar. 2019).

Indriani, D. E. (2017). Character Education Based on Pancasila Values Through Curriculum 2013 on Primary Education Children in Madura. *Jurnal Pendidikan Dasar Indonesia*, 2 (1), 13-17.

Jong, H. (2014, May 12). Jokowi wants to start 'mental revolution'. [online] The Jakarta Post. Available at: [https://www.thejakartapost.com/news/2014/05/12/jokowi-wants-start-mental-revolution.html] (Accessed 13 Mar. 2019).

Kusanagi, K. N. (2019). Development of Lesson Study in Indonesia in Tsuneyoshi, R., Sugita, H., Kusanagi, K. N., & Takahashi, F. (Eds.), *The Japanese Educational Model of Holistic Education: TOKKATSU*, World Scientific.

草彊佳奈子 (2019) . 「第 5 章インドネシアの教育の質をめぐる改革と現場の課題—ジャワの中学校の授業研究の実践を通して—」 東京大学教育学部教育ガバナンス研究会編『グローバル化時代の教育改革—教育の質保証とガバナンス—』 東大出版社

森山幹弘. (2015). インドネシアと日本の人格形成教育の比較: 西ジャワ・スダ地方を中心に. *アカデミア*. 人文・自然科学編, (10), 75-92.

Muhamad, B., & Saparahayuningsih, S. (2016). An attitude and character instructional development based on Curriculum 2013 in elementary school. *Creative Education*, 7(02), 269.

Radarcirebon.com. (2018, November 14). Jabar Masagi Memperkuat Pendidikan Karakter. [online] Available at: [https://www.radarcirebon.com/jabar-masagi-memperkuat-pendidikan-karakter.html] (Accessed 12 Mar. 2019).

The Jakarta Post (2017, October 26). Spreading the spirit of mental revolution through competition. [online] The Jakarta Post. Available at: [https://www.thejakartapost.com/adv/2017/10/26/spreading-the-spirit-of-mental-revolution-through-

competition.html] (Accessed 13 Mar. 2019).

#### 参考文献

Tsuneyoshi, R. (2017). "Exceptionalism" in Japanese education and its implications. In *Globalization and Japanese "Exceptionalism" in Education* (pp. 31-54). Routledge.

Tsuneyoshi, R., Sugita, H., Kusanagi, K. N., & Takahashi, F. (Eds.) (2019). *The Japanese Educational Model of Holistic Education: TOKKATSU*, World Scientific.

Copyright © 2010-2019 Center for Advanced School Education and Evidence-Based Research  
Graduate School of Education, The University of Tokyo

東京大学大学院教育学研究科附属 学校教育高度化・効果検証センター  
Center for Advanced School Education and Evidence-Based Research,  
Graduate School of Education, The University of Tokyo  
WEBSITE (日本語): <http://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/>  
WEBSITE (English): <http://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/en/>

